

成瀬の風

東成瀬村立東成瀬中学校

学校報：NO32 作成者：伊藤

発行：令和2年3月7日(土)

卒業に寄せて

答辭

例年には早い雪解けが進み、私たちを包み込む東成瀬の自然にも、新たな春の息吹を感じられる季節になりました。その一方で現在、私たちを取り巻く社会情勢はとても厳しいものとなっています。突然の休校措置で、卒業式の開催も危ぶまれる中、私たち東成瀬中学校第73期生15名の旅立ちをお祝いいただき、心から感謝申し上げます。

中学生としての3年間、この東成瀬中学校で過ごした日々を振り返ると様々な思い出が次々によみがえってきます。そのどれもがかけがえのないものばかりです。大きめの制服を身にまとい、緊張しながら校門をくぐった3年前。小学校の生活との大きな違いに戸惑いながら、必死に先輩の背中を追っていた毎日。先輩方には、様々なことをやさしく教えていただき、困ったときには支えていただきました。そのような先輩方の背中は、とても大きく、頼もしく感じられ、憧れの存在でした。後輩ができ、手本となるように頑張った2年生。部活動や生徒会活動でも重要な役割を任せてもらう機会が多くなり、リーダーとしての責任を感じながら、大きな一步を踏み出しました。



そして、この仲間で過ごすのも最後の1年となった3年生。どの行事にも「最後の」という言葉がつきました。9年間で育んできた絆とともに、有終の美を飾れるよう、「3C1OO Power」を胸に、全力で取り組み、全力で楽しみました。3泊4日の沖縄修学旅行。歴史や文化を学び、仲間との絆を深めました。空港に降りた瞬間に感じた、ふるさと東成瀬とは違う南国特有の空気。みんなで挑戦したシュノーケリングで、目に飛び込んできた沖縄の海は、言葉にできない美しさでした。あたたかく迎えていただいた民泊では、一緒に料理をつくったり、紅型の着物を着せていただいたり、たくさん話したり、楽しい時間を過ごしました。そして、最終日に訪れたひめゆり平和祈念資料館では、偶然いらした、元ひめゆり学徒隊の方のお話をうかがう貴重な機会を得ました。今も足に残る傷跡。語りかける一言一言に戦争の悲惨さと、平和の大切さを実感しました。

学年の枠を越え、白軍、青軍、橙軍に分かれて縦割りで行った体育祭。あいにくの天気で体育館での開催となりましたが、それでも熱気と笑顔にあふれた一日でした。

音楽を通して、皆瀬中学校、東成瀬中学校の2校が心通わせたHM音楽祭。ホールいっぱいに歌声が響きました。15人で、声と心を合わせて歌った「道」「群青」は今でも忘れられません。

そして、テーマ「新風」のもと、全校生徒45人で創り上げた東中祭。全校生徒が一人何役もの役割を担当し、お客様に喜んでいただきたい、という一心で取り組みました。最高のステージを創り上げ、私たち自身も大きな達成感を得ることができました。

中でも、特別な思い出となっているのは、3年生全員が出演した劇です。少ない時間の中で、準備から本番までの道のりは決して平坦なものではありませんでした。配役や役づくりなど、何度も何度も話し合いと練習を重ね、本番に向けて試行錯誤し、15人それぞれの個性と魅力を發揮できたことが、達成感につながったのだと感じています。

また、今年のTSBでは、「テキーラ」と「風になりたい」に挑戦しました。特に、校長先生の指揮で演奏した「風になりたい」は、忘れられない大切な思い出の一つです。

最後まで力の限り挑んだ総体、コンクール。この3年間の部活動は、私たちを大きく成長させてくれました。自分やチームの目標に向かって、毎日練習を積み重ね、全力で頑張りました。嬉しかったことも楽しかったことも、逃げ出したくなるほど辛いこともありました。しかし、全ては、仲間がいたからこそ味わえた、かけがえのない経験です。



どの部も少人数ではありましたが、その分、仲間と励まし合ってどのチームにも負けない結束力を築けたことが何よりの誇りです。自分がピンチになったとき、仲間が何度も助けてくれました。本当に心強かったです。仲間との絆、チームの団結力の大切さ、そのどれもが部活動を通して学んだことです。卒業を迎えた今、私たちは最高の3年間を過ごすことができたと確信しています。これも、これまで多くの方々の支えがあったお陰だと、しみじみと感じています。

毎日、笑顔で挨拶してくださる地域のみなさん。いつもあたたかく見守ってください、ありがとうございました。私たちは、その一言で、気持ちよく、そして安心して、一日をスタートすることができました。

どんなときも私たちのそばで、支えてくださった先生方。授業や部活動、学校生活全てにおいて、親身になって私たちのことを考えてくださいました。悩んだときには、一緒に悩み、励ましてくださいました。目標を達成したときは一緒に喜んでくださいました。その温かいご指導のおかげで、私たちは成長できたと感じています。大変お世話になりました。ありがとうございました。

いつも私たちのことを考え、どんなときも味方になってくれた家族。休日の部活動の送迎や、大会や学校行事でのあたたかい声援など、どれだけ心強く感じていたか分かりません。これからは、少しでも成長した姿を見ていただくことが恩返しになると信じています。これまで本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひします。

在校生のみなさん。これまで私たちをサポートしてくださり、ありがとうございました。生徒会テーマである「飛翔」のもと、全校生徒が一丸となって、目標を達成してきたことで、私たちは自信を胸に、新たなステージへと踏み出すことができます。これからは、みなさんが東成瀬中学校を引っ張っていく番です。これまでの伝統を引き継ぎ、みなさんらしい新たな一ページを刻むことを期待しています。

そして、最後に、15人の仲間たち。みんなとは九年間、それ以上、一緒に過ごしました。共に笑い合い、共に悩み、かけがえのない時間を過ごしました。何度も何度も話し合いを重ね、決めた音楽祭の自由曲「群青」。15人の個性が光った劇。新しい発見づくりの授業。毎日のたわいない友との会話…。全てが、忘れることができないかけがえのない宝物です。今まで当たり前のように共に過ごし、思い出を作ってきた仲間との生活が、今日で最後になることを、まだ信じられません。今はまだ、ここから離れがたい気持ちが大きいです。しかし、それぞれの未来に向か、新しい一步を踏み出さなければなりません。

「きっと また会おう
あの町で会おう
僕らの約束は
消えはしない 群青の絆」



これから先、大きな壁にぶつかることもあると思います。そんなとき、この大切な仲間と過ごした東成瀬中学校で学んだことを誇りに、それぞれ選んだ道を、力強く一歩ずつ確実に歩んでいきましょう。15人で奏でた「群青」のように、また会える日を信じて。今まで、本当にありがとう。

いよいよお別れのときです。私たち卒業生15名は、抱えきれないほどのたくさんの思い出の詰まったこの学び舎を巣立ちます。東成瀬中学校、令和最初の卒業生としての誇りを胸に、これからも自分たちの力で前進していくことを誓い、答辞といたします。

令和2年3月7日 卒業生代表 最上谷 日暖